

## 1 事業総括

緊急一時保護や社会復帰促進事業などの施設利用者数は、平成27年度まではほぼ横ばいの状況だったが、平成28年度は前年度比で約26.1%の減少となっている。この傾向は、例年需要の高い単身世帯も同様で、相談件数も概ね比例して減少している。(平成27年度123件、平成28年度85件) 相談後キャンセルとなる率は、11%前後と変わらず、そもそもの相談件数の減が入所件数として表れている。利用者の状況は、全体的な傾向は平成27年度とあまり変わらないが、利用期間において、単身世帯が家族世帯に比べ、やや長期化している。これは、平成28年度に長期在所していた家族世帯が退所した反面、社会復帰促進事業利用者など単身世帯が長期化したことにある。更生施設の通所事業を積極的に活用する利用者は、地域移行が円滑にできる傾向がみられることから、更生施設で実施している自立支援プログラムと社会復帰促進事業の連携が、円滑な地域移行には効果的であると言える。

緊急一時保護事業については、平成27年度と比較して単身世帯の特性に違いがみられた。平成27年度では、いわゆるDV被害による利用が約30%を占めていたが、平成28年度では約15%と半減し、これまであまり見られなかったネットカフェ等で暮らす住所不定者が増えている。このことは退所先の傾向にも表れており、入院除籍や任意退所など居宅確保にまでつながらない事例が見られた。家族世帯に関しては、大きな傾向の差は見られなかった。

平成29年度はカナルサイド高浜の建て替えのため、年度中途での事業休止を控えている。長期在所世帯の転居先の確保と現在入所世帯の退所促進を第一に、引き続き安全で安心した地域生活を営めるよう支援をしていく。

### 〔利用実績〕

(単位：世帯)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	84	7	5	7	6	9	8	10	2	7	10	3	10
退所世帯数	90	13	6	6	7	10	7	8	3	13	4	9	4
月末在籍世帯数	平均 25.8	27	26	27	26	25	26	28	27	21	27	21	27
27年度	平均 26.3	25	22	27	33	36	31	33	35	28	33	32	34

### 〔退所理由〕

(単位：世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
28年度	1	21	49	3	5	1	0	1	5	1	0	3	90
27年度	0	27	61	0	10	0	1	0	8	1	0	3	111

## 2 主要目標に対する成果

### (1) 利用世帯が安心・安全に生活できる居住環境の提供

定期的な巡回による安否の確認と声掛けを励行し、積極的な情報提供を行った。また、福祉事務所と本人との懸け橋となり、双方が安心して地域へ移行できるよう配慮した支援を行った。

### (2) 迅速な居室整備により、福祉事務所等実施機関のニーズに即応

利用世帯退所後、速やかに居室整備を行い、次なる入所に備えた。また、水回りやテレビ等備品の修繕、利用世帯退所後の居室ドア鍵の交換などは、職員のスキルを生かし実施した。当日入所にも即応している。

### (3) 利用者の意思を尊重し、世帯状況に応じた適切な支援

地域のこども家庭支援センターとの連携や学校、特に特別支援学級との連携など利用者が暮らしやすい環境を整えた。また、路上生活者自立支援センターの活用を図ることができた。

### (4) 大規模災害を想定し、事業継続計画に基づいた災害対策

計画どおり防災訓練を実施した。また、BCPに水害対策を想定したものを加えた。

<b>3 運 営 管 理</b>	
<p>(1) 日常生活の援助 泉岳寺方面に新たにコンビニが開業し、田町方面にもスーパーが開店した。従前からある大型スーパーなども含め、地域周辺の医療機関や交通機関の利用方法などを地図にまとめ、買い物等の不便さを軽減するよう、しおりとともに生活情報を提供した。</p> <p>(2) 自立促進・転出促進 平成 23 年入所世帯をアパートに転居させることができた。複数の不動産業者を紹介することで、世帯状況に応じた転宅を促進した。また、DV 被害世帯など、利用区と違う場所への転居を余儀なくされる世帯に対し、転出先地域の活用できる情報を提供し、不安の軽減を図った。</p> <p>(3) 諸行事 ほぼ計画どおり実施できた。特にクリスマスや春の集いなどは、ボランティアによるゲストを招き、好評だった。また、防災訓練では、高輪消防署の協力により、実戦的な活動ができた。</p> <p>(4) 職員会議等 平日の朝は、当日の入退所状況や空居室の確認など、情報の交換・共有を図った。特に、月曜日の朝は、事務局の朝会を受け、情報の提供と周知などを図った。</p>	
<b>4 保 健 衛 生 ・ 環 境 整 備</b>	
<p>(1) 保健衛生 保健栄養相談の積極的な活用を図り、特に単身者は積極的に受講に結びつけた。また、利用者懇談会でも資料を配布し、周知に努めた。インフルエンザ対策では手洗い、消毒のほかマスクを提供して着用を促し、感染症予防の啓発を行った。</p> <p>(2) 環境整備 カナルサイド高浜の建物管理会社（東急コミュニティ）と連携し、リサイクル回収の頻度を増やし、ごみ倉庫を整理した。</p>	
<b>5 施 設 の 社 会 化 （地域交流事業など）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カナルサイド高浜自治会事務局として、様々な行事や防災訓練などを通じて、地域住民に寄与した。また、高浜荘利用者と区民住宅居住者との交流促進に努めた。</li> <li>・3階の一部スペースを港区の障がい者団体に貸し出している。行事などでお互いの利用者が交流し、施設開放事業として活動を支援している。</li> <li>・こども家庭支援センターや港区地域活動課港南支所などと連携し、家族世帯の就学相談など様々なニーズに対応した。</li> <li>・平成 30 年から始まる港区の再開発計画に伴い、地域住民向けの説明会などの場所の提供や屋上を開放し、JR、港区議員団体等の関係機関の見学に対応した。</li> </ul>	
<b>6 福祉サービス第三者評価 評価結果</b>	
<p><b>評価機関</b>：特定非営利法人 NPO サービス評価機構      <b>実施期間</b>：H28. 6. 1～H28. 7. 6</p>	
<p>指定管理 4 年目施設として実施し、平成 28 年度特別区人事・厚生事務組合指定管理施設評価委員会に報告された。</p> <p><b>評価結果</b>：総合評価 【良好 (74. 3%)】</p> <p><b>特に良いと思う点</b></p> <p>①利用者の安心した生活および退所に向けての支援をきめ細やかにしている。</p> <p>②地域行事を自治会と合同で開催し、利用者が地域の方々と自然な交流ができています。</p> <p>③支援の資質向上を目指し、職員のスキル向上や情報共有に積極的に取り組んでいる。</p> <p><b>さらなる改善が望まれる点</b></p> <p>①「利用者台帳」の「入所後の経過や「相談記録」のより一層の充実や工夫を期待する。</p> <p>②利用者の意向をより一層行事や運営改善に活かしていくことを期待する。</p> <p>③ボランティア受け入れ態勢のさらなる充実が望まれる。</p>	<p><b>施設コメント</b>：</p> <p>区分評価では、福祉第三者評価において A(優良)であったが、指定管理 4 年目評価では B(良好)、総合評価が B (良好) となった。特に使用料徴収状況で「要改善」とされ、未納のまま退所した世帯への督促と徴収が課題となっている。</p> <p>平成 28 年度は、すでに退所した世帯のうち 2 世帯から徴収することができた。これは、単なる督促だけでなく、行事等の招待などで連絡を絶やさなかったこともあり、引き続き、機会をとらえ徴収の努力をしていく。</p>

